

平成 16 年 3 月期 第 1 四半期業績の概要（連結）

平成 15 年 7 月 31 日

上場会社名 富山化学工業株式会社

(コード番号：4518 上場取引所 東証・大証1部)

(URL <http://www.toyama-chemical.co.jp/>)

問合せ先 代表者 取締役兼代表執行役社長

中野 克彦

責任者 執行役 経営戦略部門長兼経営企画部長

水野 淳一

(TEL : (03)5381-3837)

1. 四半期業績の概要の作成等に係る事項

売上高の会計処理の方法の最近連結会計年度 : 無
における認識の方法との相違の有無

2. 平成 16 年 3 月期第 1 四半期業績の概況（平成 15 年 4 月 1 日～平成 15 年 6 月 30 日）

(1) 売上高

(注) 百万円未満切捨て

	百万円	%
16 年 3 月期第 1 四半期	3,181	(-)
15 年 3 月期第 1 四半期	-	(-)
(参考) 15 年 3 月期	32,997	

(注) パーセント表示は、前年同四半期比増減率を示しておりますが、前年同四半期決算を行っていないため記載を省略しております。

前年同四半期については、四半期決算を行っていないため記載を省略しております。

当第 1 四半期における概況は、本年 4 月より実施されました被用者本人の自己負担増加等もあり、予想以上に市場が低迷いたしました。

当社の医療用医薬品は 4 月より大正富山医薬品株式会社が市場へ販売を行っております。従来当社に掛かっていた営業活動に伴う人件費、販売促進費等の諸費用が同社へ移行したことにより、これらを織り込んで供給価格を決定しております。この供給価格が当社の売上高となるため従来と比べ売上高のベースが変更になっております。

大正富山医薬品株式会社では、当社製品のトミロン、ペントシリン、オゼックス並びに、昨年 9 月に発売致しましたパシルの 4 品目を重点品目と位置付け、販売活動を行っております。

(2) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

特にございませぬ。

3. 平成 16 年 3 月期の連結業績予想

(1) 中間連結業績予想の修正（平成 15 年 4 月 1 日～平成 15 年 9 月 30 日）

(単位：百万円、%)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表時 (A) (平成 15 年 5 月 20 日発表)	7,900	1,800	1,670
今回修正予想 (B)	6,800	2,600	2,470
増減額 (B - A)	1,100	800	800
増減率	13.9	-	-

(参考) 1 株当たり予想当期純損失 14 円 4 銭

(2) 通期連結業績予想 (平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 16 年 3 月 31 日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期利益	1株当たり予想 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期	22,200	160	200	1 14

(3) 平成 16 年 3 月期中間連結業績見直し修正の理由

大正富山医薬品株式会社では、当社と大正製薬株式会社との営業活動の統合を図り一体的に活動するために、MRの営業スタイルの統一、MRの担当区域の見直し、流通在庫の圧縮、取引先卸の調整、価格体系の見直し等、営業活動基盤の整備を行いました。当社製品はこれらの影響を大きく受け、総じて低調な結果となったため、中間期の業績予想を変更しております。この基盤整備も順調に推移していることから、通期では当初の計画を達成できるものと見込んでおります。

(参考) 平成 16 年 3 月期の個別業績予想

(1) 中間個別業績予想の修正 (平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 9 月 30 日)

(単位 : 百万円、%)

	売 上 高	経 常 利 益	中間純利益
前 回 発 表 時 (A) (平成 15 年 5 月 20 日発表)	7,300	1,850	1,700
今 回 修 正 予 想 (B)	6,150	2,650	2,500
増 減 額 (B - A)	1,150	800	800
増 減 率	15.8	-	-

(参考) 1株当たり予想当期純損失 14 円 21 銭

(2) 通期個別業績予想 (平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 16 年 3 月 31 日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期利益	1株当たり予想 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期	20,900	100	200	1 14

(3) 平成 16 年 3 月期中間個別業績見直し修正の理由

連結業績予想に記載のとおりであります。

なお、業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上

平成 16 年 3 月期 第 1 四半期業績概況 付帯資料

(1) 医療用医薬品等主要製品別売上高

(単位 : 百万円)

	16 年 3 月期 (予想)		16 年 3 月期 第 1 四半期
	中間	年間	
医療用医薬品	5,910	19,200	2,537
トミロン	1,250	4,000	482
ペントシリン	1,650	3,800	706
オゼックス	800	3,000	278
パシル	350	1,400	152
ルブラック	400	1,100	180
つくしAM散	350	900	160
ハロスポア	250	700	118
タゾシン	200	600	80
その他	660	3,700	381
CHC製品	110	180	98
工業薬品	80	80	62
技術料収入	50	1,440	22
単体合計	6,150	20,900	2,719
その他	650	1,300	462
連結合計	6,800	22,200	3,181

医療用医薬品売上については、当期より大正富山医薬品(株)への供給価格によっている為、売上高の前期比較はおこなっておりません。

(2) 新製品開発状況

開発段階	開発番号	剤形	薬効	特徴	備考
申請準備中	T-614	経口剤	抗リウマチ剤	疾患修飾型抗リウマチ剤(DMARDs)、炎症性サイトカイン産生の抑制作用、免疫グロブリンの産生抑制作用を有しており、慢性関節リウマチの改善作用が期待できる。2003年3Q頃申請見込み。	<国内> エーザイと共同開発 <海外：南アフリカ> Phase a 終了(自社) 韓国：東亜製薬へ導出
Phase	TN-3262a	点眼剤	ニューキノロン系合成抗菌剤	経口剤「オゼックス錠」の点眼用剤として開発。2004年2Q頃申請見込み。	ニデックと共同開発 大塚製薬と販売提携
Phase	T-588	経口剤	アルツハイマー型痴呆症・脳血管障害後遺症治療剤	神経細胞保護作用、神経栄養因子的作用など、さまざまな作用が得られている。アルツハイマー型痴呆症に加え、緑内障にも有効性が期待されており、これらを対象とした臨床試験を検討中。	<海外> 英:Phase a 終了(自社) 導出検討中
Phase	T-3811	経口剤	ニュータイプのキノロン系合成抗菌剤	既存のニューキノロン剤とは異なる構造を有し、特に呼吸器感染症の多剤耐性菌を含む起炎菌に高い抗菌力を示す。また、安全性面では関節毒性が弱いことより、小児への適応の可能性も考えられる。	<国内> ブリistol・マイヤーズと共同開発 <海外：欧米> BMS社へ導出
Phase		注射剤			
非臨床試験準備中	T-5226 (AP-1 阻害剤)	経口剤	抗リウマチ剤	転写因子 AP-1 を阻害することより、免疫異常だけでなく、関節破壊をも抑えることができ、慢性関節リウマチの根本治療薬として期待できる。	科学技術振興事業団からの国内開発委託事業。自社開発。

(3) 導出先の開発状況

開発段階	開発番号 / 導出先	剤形	薬効	特徴	備考
申請準備中	T-3811 BMS社	経口剤 注射剤	ニュータイプのキノロン系合成抗菌剤	既存のニューキノロン剤とは異なる構造を有し、特に呼吸器感染症の多剤耐性菌を含む起炎菌に高い抗菌力を示す。また、安全性では関節毒性が弱いことより、小児への適応の可能性も考えられる。2003年申請見込み(経口・注射)。	一般名はガレノキサシン (Garenoxacin) 商品名はインフォース (INFORCE) 経口・注射：欧米